

項目	概要
日時	2023年3月13日(月) 9:00~10:35
場所	Web会議によるオンライン開催 (Zoom)
議事次第	<p>(1)開会及び挨拶</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 会長挨拶 (東京大学 五神 真)</li> <li>2. 来賓挨拶 (総務大臣 松本 剛明)</li> </ol> <p>(2)コンソーシアムの活動報告、活動計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 企画・戦略委員会報告 (企画・戦略委員会委員長 森川 博之、白書分科会主査 中村 武宏)</li> <li>2. 国際委員会委員会報告 (国際委員会委員長 中尾 彰宏)</li> <li>3. 次年度のコンソーシアム活動方針 (事務局)</li> </ol> <p>(3)関連活動について</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 総務省の取組み (総務省 増子 喬紀)</li> <li>2. Beyond 5G/6G を実現する研究開発戦略 (国立研究開発法人情報通信研究機構 徳田 英幸)</li> </ol> <p>(4)意気込みについて</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 企画・戦略委員会委員長 森川 博之</li> <li>2. 国際委員会委員長 中尾 彰宏</li> <li>3. 日本電信電話株式会社 澤田 純</li> <li>4. 第5世代モバイル推進フォーラム 吉田 進</li> </ol> <p>(5)Beyond 5G の取組に係る進捗・今後の取組</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 株式会社NTTドコモ 井伊 基之</li> <li>2. KDDI株式会社 高橋 誠</li> <li>3. ソフトバンク株式会社 宮川 潤一</li> <li>4. 楽天モバイル株式会社 矢澤 俊介</li> </ol> <p>(6)閉会挨拶</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 一般社団法人日本経済団体連合会 遠藤 信博</li> </ol>
参加者数	約180名

以下は、議事要旨である。

#### (1)開会及び挨拶

##### 1. 会長挨拶 (東京大学 五神 真)

- ・ 本コンソーシアム設立から早くも2年3ヶ月が経ちました。この間私達を取り巻く世界は大きく動いております。本コンソーシアムでも各戦略委員会、

国際委員会新経営戦略センターなどか活動が活発に行われており、進捗を本日報告していただきこれまでの皆様のご支援とご協力に改めて感謝いたします。ここ数年、人類社会はかつてない大きな変化の渦の中に投げ込まれています。まず世界を襲っている新型コロナの影響は甚大であります。この3年余り、ウイルスの変異と感染拡大が繰り返される中で、私達は新しいライフスタイルを探りながら、社会経済を何とか維持してきたと言えます。感染が拡大し始めた2020年の春頃。私は2014年製のノートパソコンを使用していました。オンライン会議用のアプリは重たく2020年の夏に最新モデルに更新しました。外観はほとんど同じでしたが、動きは見違えるほど軽快になり、この間の半導体技術の進歩を実感いたしました。無線通信もまたまだサブ6GHzが中心ではありますが、5Gもかなり普及しました。ボトルネックが様々なところに生じやすい有線接続よりも平均速度はおそらく高くなっているのだと思っています。これらのデジタル化は研究の最前線の様子も大きく変えています。新型コロナワクチンがインフォーマティクにより迅速に開発されたことはその典型であります。深層学習は、機能的なデータを起点とした、解析、推測という新たな科学的手法も正しい既にあらゆる分野に急速に広がっています。今年度の私が参加した東京大学の物理学専攻の博士学位審査でも、機械学習やデータ解析法を主題とした物理学の学位論文がいくつも提出されていました。一方武力衝突のニュースには日々心を痛めています。先端技術が詰め込まれた武器が使用され宇宙空間を介して報じられる戦場には虚実が入り乱れています。最新のセンサー技術や人工知能技術を総動員した高度な情報戦が戦場を支配しています。戦場はサイバー空間にも及んでいるのです。また地球温暖化も深刻です。庭や街路樹の変化を見ると、それが着実に進行していることを実感します。環境科学からの警鐘は鳴りやみません。重要なことは、これら全て人類の行動を起点として起きているということです。従ってその解決の責任は私達自身にあります。この混乱や矛盾を後の世代に転嫁しない、それは現代を生きる私達の責務であります。残された時間はほとんどありません。個人の自由と多様性を尊重しながら地球をみんなの共有地、グローバルコモンズとして守らねばなりません。原因は全て人の行動ですので、私達の行動を変えていく仕組みを作ることが課題解決の本質です。もちろん国家による強い管理ではなく、この自由を尊重しなければなりません。個人が一つ一つの行動においてそれが他者や地球にどのような影響を与えるものなのかをリアルタイムで感じ、行動選択に反映させていく。そしてそれを経済システムに組み入れ、経済成長の家庭とする仕組みをつくるということでもあります。私達アカデミアの責任も重大です。手元の知識を俯瞰的に分析しそれを再編成し、未来のために必要な新たな領域をし

っかり見極め、街を一層豊かにして、それを適切に活用する道筋をつけていかねばなりません。課題解決の鍵はリアルタイムのデータの活用であり、それを支える通信と計算科学の高度化が不可欠です。ところで最近、深層学習を代表とする AI 技術がまた大きな進展を遂げています。例えば今注目を集めている ChatGPT というサービスがあります。大量の言語でウェイターと最新の深層学習技術を組み合わせることで、自然言語処理の精度が飛躍的に向上したのです。私自身も最近試しているのですが、まるで立花隆さんと話をしているような錯覚を覚えました。今後、最新データを取組みながら取り込みながら、この技術はこの先 1 年の間に見違えるようにマシン化していくことは間違いないと思います。高度で精緻化された自然言語処理技術はこれまで思考力が必要とされていた知的仕事についても容易にこなせているように見えます。知識集約型社会における価値創造の本質をこのタイミングでしっかり見直すべきであります。人間でなければできないこと、人間だからこそできることとは何かをしっかりと捉えその力を鍛える必要があります。問題を解く力ではなく問題を発見する力、発想力と創発力が勝負になるでしょう。その勝負を戦うには、信頼できる良質なデータが常に共有でき、それを参照し、先進的な計算予測科学を使って分析し、その結果を、誰もがサイバー空間とリアルな空間を自由に行き来しながら活用できるようにしておく、そのような環境が社会インフラとして整備されている必要があります。新しいサービスの特徴は対話型でありまして、リアルタイムの応答を基本としているので通信の高度化に対する要求は一層高まるはずで、もちろんそれを支える技術は、環境負荷に配慮したものを選択されねばなりません。あらゆる場面で必要となる半導体の高度化、省電力化は不可欠です。解析アルゴリズムや情報通信システムについても徹底的に無駄を省くことが必要です。また消費で電力消費を押し上げる主要因となるセキュリティ技術の高度化も不可欠です。最新の予測価格を情報通信技術へ適用して、障害自動検知回復を実現する超知性ネットワークも重要です。無線通信技術を 5G から Beyond 5G へとシームレスに進化させていかなければなりません。同時に更に先に進む先端半導体技術深層学習に代表される人工知能技術のさらなる進化、その汎用化を支える数理学、さらに最先端のスパコンとリスクマシンの連携による量子古典ハイブリッド計算など、今後 10 年以内にも大きな展開が確実な技術とも密接に連携させて研究開発を戦略的戦略的に進めなければなりません。それらを連関させる中で、社会で活用できる技術の選択肢を広げていくのです。旧来のやり方を漫然と続けていたのでは勝ち筋を見出すことは不可能です。現在世界はめまぐるしく変化しています。その変化にどう対応するか。国も国際社会も戸惑っています。だからこそ、これらの変化に柔軟かつ

迅速に対応し、産官学実を上げて、同志国との連携を本気で進めなければなりません。そうすることで地球システムをコモンズの悲劇から救い、それを社会成長に繋げる可能性が生まれる。そのためには、国際連携戦略が最重要であります。通信事業やそれを管理する行政において最大限の本気度、ちゃんと緊張感を持って進めなければなりません。国際委員会の方向にあるように、米国 Next G Alliance、欧州 Hexa-X、フィンランド 6G Flagship など世界は 6G に向けた具体的な技術開発の成果を発信し、グローバルリーダーとしてのポジションを強くアピールしていています。日本はこの分野において、国際的な存在感が幸いまだあります。その優位性がある今行動しなければ、日本が主体的に関わる機会は永久に失われてしまいます。本コンソーシアムの体制もこの第 2 フェーズに向けて国際戦略を主軸に据えるように大きく舵を切り直すべきだと私は考えています。様々な専門知識を持つ多様なメンバーのグローバル連携協力により、このチャンスをしっかり捉え、次世代技術の研究開発と実装を加速し、未来の社会基盤を構築したいと思います。今後とも本コンソーシアムご参集の皆様と一緒に、我が国の未来社会を共創していくための活動を推進していきたいと考えております。

## 2. 挨拶（総務大臣 松本 剛明）

- ・ 情報通信は日本と世界の未来のキーテクノロジーでありまして皆様の取り組みには心から敬意を表します。政府総務省といたしましても、産学官の連携を密にして、Beyond 5G 実現に向けて皆様とともに取組んでまいりたいと存じます。今総務省としてはデジタル田園都市国家 国家インフラ整備計画を策定しまして 5G や光ファイバーなどのデジタル基盤整備の加速化に取り組んでいるところでございます。Beyond 5G につきましては、NICT に恒久的な基金を今年 3 月に創設し、これを活用して我が国が強みを有する技術分野を中心に社会実装化が海外展開に向けた戦略と意欲を持った戦略的なプロジェクトに重点的に支援を行ってまいります。オープン RAN に関する取り組みも進めておりまして、ご案内の通りこれは基地局機器の接続規格をオープン化し、多様なメーカーの機器の自由な組み合わせを可能として、低コストで安全性の高い無線アクセスネットワークを実現するもので、Beyond 5G においても重要と考えているところでございます。昨年 12 月に国内の複数地通信事業者の連携により、オープン RAN 規格に準拠した基地局の試験認証を行う世界初の拠点としてジャパン OTIC が横須賀テレコムリサーチパークに設立されました。また、私は別個、米国出張をはじめ総務省として国際場裏でのオープン RAN に関する働きかけを進めております。これからも、G7 のデジタル技術大臣会合など機会を捉えて進めてまいりたいと考えております。国際機関の舞台での活動も進めており、ITU 国際電気通信連合では、本年 1 月か

ら電気通信標準化局長に我が国の尾上誠蔵氏が就任しております。標準化に関することを含め、国際社会における国際連携、その中での国の主導権を目指してまいりたいと思っております。2025年大阪関西万博におきましては、総務省でも Beyond 5G Ready ショーケースとして先行的な研究成果等を世界の人々が体感できる機会を提供する展示に繋げてまいります。五神コンソーシアム会長のお話を伺いまして、科学技術立国を目指す我が国としても Beyond 5G も大変大切であるということを再認識いたしました。その実現に向けて、まさに今こそというお話でありましたが、我が国が世界をリードできますように総務省としても制度面予算面で頑張ったいと思っております。関係者の皆様におかれましては引き続き積極的な取り組みをお願い申し上げます。結びに、本コンソーシアムの益々の発展を祈念いたしまして、私からご挨拶とさせていただきたいと思っております。

(2) コンソーシアムの活動報告、活動計画について発表が行われた。

(3) 関連活動について発表が行われた。

(4) 意気込み・メッセージ

1. 企画・戦略委員会委員長 森川 博之

- ・ この場は Beyond 5G を推進する場ですけれども。やはり我々認識しておかなければいけないことは今の 5G を盛り上げるってこともちゃんと考えておかなければいけないだろうと思っております。具体的には業界連携とミリ波ですね、これをドライブしながら 5G をテイクオフさせていく。さらに 5G では、ご案内の通りオープン化ソフトウェア化などのゲームチェンジがありますので、この波を我々が先導しながら Beyond5G に繋げていくということがとても大切なんだろうというふうに思っております。我が国として盛り上げていく Beyond 5G 推進コンソーシアムも次のフェーズに繋げていかなければいけないと痛切に感じております。具体的には 5G も一緒になって考えていかなければいけないと思っておりますので 5GMF と Beyond5G 推進コンソーシアム、一体的に動いていくことが大切かなというふうに思っております。今までのやり方にとらわれず新しい試みを色々としていくような場としていきたいと思っております。そこで注意しなければいけないことは、場を作ればいいというものではないということ。場を作るのも手段なわけです。そのため、新たな場で何のためにするのか目的は何なのかというところは、しっかり我々はぶれないようにしておかなければいけないというふうに思っております。残念ながらその点について、我が国は相対的にちょっと弱いように感じております。例えばいろんな事例がありますけれども、標準化でいうと標準化することが目的ではないはずで、同じように知財に関しても知財をとることが目的

ではないはずで、標準化するのも知財をとるのも、あくまでも手段であるはずです。同じように国際連携も手段であって、目的ってというのはその裏に必ずあるべきものだというふうに思っております。一番重要なのはこのような活動を通して我が国の国力あるいは民間企業の力を向上させていくっていうことだと思っております。この場の活動はボランティア活動ではありませんし、あとまた今までも言われていましたけれども技術で勝ってビジネスで負けるってということにはならないようそういうところをやっぱり十分に認識しながら進めていかなければいけないというふうに思っています。そのような何のためにあるのか。それを考えるにあたっては参加いただいているような皆様方も含めたいろいろなステークホルダーの方々の欲望を把握することがまず大事であると思っており、皆様方からはその欲望を出していただいて、それを把握した上で、何のために何をしていくのかっていうことを議論できるような、そういった場を作っていきたい。5Gでゲームチェンジャーが起こってきますので、その中身を世界にその先導して作っていくことを強く思っております。

## 2. 国際委員会委員長 中尾 彰宏

- ・ 国際連携の戦略が非常に重要になると考えています。先日情報通信の学会の講演でも少しお話させていただいたんですけども、国際連携がなぜ重要かというお話で、例えば情報通信によって物理的な制約から解放される。コロナ、それからウクライナ侵攻でも、我々は痛切に身に染みてわかったわけですけども、こうした価値ってというのはグローバルで共通なんですね。この価値を創造するための知恵ってというのはいろんなリーディングリーダーとして活躍している同志国の組織と連携して培っていく方が効率的だと思います。いろんな先進的な取り組みをしていくところから、対応的な考え方を学んで進めていく、これが今後、2年たった当コンソーシアムに必要なのではないかなと考えています。そのため、当コンソーシアムの国際的なプレゼンスを向上するために、海外との交流機会を通じて、色々な機関との協力関係を推進してきました。例えば米国出張では日米のインターネットエコノミックダイアログが米国国務省で行われましたが、米国の官庁、それから企業との共同のセッションを行って、このコンソーシアムの紹介を行って、国際連携の必要性について言及をしています。また外務省のご招待で、欧州の政策研究所への訪問および外務省共催の講演会に出席をいたしまして、同様に取り組みの重要性について訴えてまいりました。今後は白書分科会のアウトプット、これをもっと国際的に周知を進め、周知だけではなく、各国との共通の課題や目標をシェアして、先ほど申し上げた国際連携の目的を進めたいと思っております。また、米国ではNSF、Next G Allianceと会話をしてまいり

ました。その中で TIP というですね、チップテクノロジーイノベーションパートナーシップ、こちらが産学連携と国際連携の具体的な活動を始めているということを知りました。大学それからスタートアップインキュベーター、それからベンチャーキャピタルですね、こうしたものが連携して、エコシステムを作り始めているということについてよくわかりました。今年は AI 分野などに投資が進んでおります。国際連携ということで言いますと、フィンランドやブラジル、韓国、アイルランド、米国は既に具体的な連携を始めています。5G に関しては、セキュアリングオペレーションという、5G、あるいは Beyond5G を安全安心のために通信として使うといったユースケースのエコシステム作りが急速に進んでいます。ここはぜひこういった TIP の活動とか、各機関がどういう国際連携を進めているかというところの分析とそれに対応して連携を進めたいと考えています。本コンソーシアムとしても、グローバルファーストという目標を掲げている。国際委員会は当初は設定されていた情報の周知、それから情報収集ということだけではなく、連携の戦略を進める時期に来たと考えています。NTT が進めていらっしゃる IOWN や、日本の存在感が強いオープン RAN、また Beyond 5G 基金を使った研究開発データ成果、こうしたものを中心として世界のマーケット取りにいく戦略が必要だと思えます。今後は国際連携に関しましては、我々の委員会は国際委員会という名前なんですけれども、実態は国際連携戦略委員会だと考えて、取り組みたいと思っております。

### 3. 日本電信電話株式会社 代表取締役社長 澤田 純

- 一言で言うと、コンソーシアムの推進活動をより包括的なものにすべきではないかということです。包括的という意味は、通信のみにターゲットを置かないとか、通信から見た世界というだけではなく、より全体的なものから見た場合通信も一部であるという前提での判断が要るんじゃないかと考えています。例えば時代認識なんですけれども、もう既にグローバリズムは分断された社会へなっておりますし、ご案内のように安全保障の重要性が拡大しています。ですからフレンドシェアのような価値観を同じくする国地域での取り組みはあるとともに、世界全体ではどうしていくんだというこういう同時両立が求められる。さらにはルールをちゃんと守ろうよとか、トラストなどが求められる時代であり、我々が携わっておりますこの情報通信技術の大半はデュアルユースである、そういう認識を持つべき時代になっています。さらにこれは SNS でかなり進んでしまったと思うんですが情報通信技術の発達がですね、むしろ格差や分断を産んでしまう危険性もある時代です。つまり Beyond 5G で我々が議論しているものは、目的は安定的で持続可能な社会の構築ということなんだと思うんですが。プラスの影響だけではなくマイナス

の影響も与えるという認識が必要だろうと思っております。今日もお伺いしてですね、半導体産業との連携がほとんど言及されていません。つまり例えば自動運転や新しいウェアラブルやインプラントなどの端末を考えるとどう自主開発を日本の企業が推進していったそれが情報通信産業に連携していくのかと。あるいはNTTがやっているような光電融合のような開発をどう支援していくのか。その上で6Gを構成する各技術の研究の推進、さらには環境に反映した技術の推進、そういう連環された取り組みが要るんじゃないかと感じています。基盤整備ですが、データの取り扱いについてはEUでかなりクローズドに動きながらという部分があります。つまり既に社会は分断されてデータ主権というものが表れています。そのデータ主権の考え方にに基づきますと各国が独自に整備をしないと間に合わない。しかしデータフリーフローウィズトラストの考え方で価値を同じくする国地域は相互に接続していくべきだと。さらに相互主義に基づいて全世界で連携を進めるべきだと考えております、国際的なデータ連携基盤を作っていくと広い概念、2段階のですね、いわゆるグローバルローカルのような同時両立の考え方が基盤整備に求められる。今週NTTがiPhoneを最初の超低遅延、超低遅延ネットワークを出しますが、これは証券取引所もお使いになると聞いていますが、多分日本の証券取引所の価値を世界と違うものに上げていくものになるようにも思われます。そのような新しい基盤を日本の産業基盤にどう繋げていくのか。ご説明もありましたHAPSや低軌道衛星を含めてNTNというよりも複合化された地上テレストリアルとも繋ぐ複合ネット基盤をどう整備するのか。こういう視点もぜひ議論に入れていただきたいと思います。最後に社会文化なんです、人間中心のAIといわれておりますが対象は人間だけではありません。非常に多くのアバターも出てきますので、概念をより広げてAIガバナンスというのも重要です。G7のデジタル大臣会合でAIガバナンスについて議論されると聞いております。ぜひどのようなガバナンスを日本は考えていくべきなのか、そして情報通信ガバナンス自身が安全保障に基づいて世界の中でどう位置づけられていくかを考えて頂きたい。そして最後に、Beyond 5G時代における思想とかですね。漫画などは昔から違法コンテンツの問題が前からありますが、法律の域外適用等も検討していく時代じゃないだろうか。このように考えております。

#### 4. 第5世代モバイル推進フォーラム会長 吉田 進

- ・ 今後のコンソーシアムの取組につきまして期待を述べさせていただきます。

何といたってもBeyond 5Gの前提となりますBeyond 5GReady環境の早期実現の重要性でございます。その関係で5GMFの三つの取り組みをごく簡単にご



紹介させていただきます。併せて社会インフラ化に向けた留意点や様々な確認を超えた連携の重要性の2点にも触れさせていただこうと存じます。まず、Beyond 5GReady 環境の早期実現に向けた5GMF内での活動でございますが、一つ目がローカル5Gの普及促進です。サービスEMS内の地域医療推進委員会やローカル5G普及推進官民連絡会を通じまして、情報発信や啓発活動を行っております。Beyond 5Gにおきましても、ミリ波やテラヘルツ波等の高周波数帯が割り当てられ、ローカル5Gと同様にスポット的なありようが想定されますことから、それに向けて今から研究開発や制度運用等の諸課題に取り組むべきと考えられます。二つ目が、28GHz帯の準ミリ波帯の普及推進でございます。5Gの商用展開におきまして28GHz帯の利活用は、エリア的にも端末の普及の観点でも十分に進んでいるとは言えません。そのため5GMSにおきましては、ミリ波普及推進、アドホックを設置し、課題の抽出と対応策、ビジネス動向、今後の大展望等について白書に取りまとめ中でございます。3月末には第1版を公表する予定にしております。三つ目は、5Gの導入状況が日本地図の上から一目でわかります。事例マップのホームページへの掲載です。現在総計153件を掲載しております全国各地での取り組みが比較的に良い俯瞰ができることから、新規ユーザ獲得のインセンティブに繋がることを期待しております。Beyond 5Gの取り組みにつきましても、その周知啓発や新たなユースケースの開拓に繋げ役立つのではないかと期待されます。以上がBeyond 5GReady 環境の早期実現に向けました5GMFの取り組み事例でございますが、あと2点触れさせてください。1点目ですが持続可能な社会インフラ化に向けた留意点といたしまして、カーボンで社会への貢献、ネットワークの強靱化、ダイバーシティすなわち多様性を重んじた取り組みの重要性はいうまでもございません。NTTのIOWNに代表されます融合のほか、研究開発による革新的な取り組みには大いに期待しております。また、たとえネットワークトラブルが発生いたしましても、決してユーザには影響が及ばないよう、ネットワークの強靱化の仕組みやサイバーセキュリティの強化を推し進め、命が預けられるインフラの域にまで到達することを切に願っております。ダイバーシティの中でもジェンダー問題につきましては5GBeyond 5Gの今後の展開において、女性の登用女性ならではの視点が不可欠でございます。その意味で私どもの英断が求められているのではないかと思います。2点目といたしまして、様々な垣根を越えた連携の重要性すなわち異業種連携や国際連携などの重要性につきましては先ほどもご発言がありました通り論を待ちません。世界的には悩ましい状況にもございますが、NTT尾上氏のITU電気通信標準化局長承認を追い風といたしまして、長期的な視野でもって諸外国との深い信頼関係の構築にも注力してい

きひいては日本の海外からのフィジビリティ向上に繋がってほしいと切に願っております。最後になりますが先ほども申し上げました通り、ローカル 5G のスポット的なエリア構築の技術は、Beyond 5G のエリア展開の基本になると思われまし、その普及につきましてはそのまま Beyond 5G のミリ波帯さらにはその先のテラヘルツ帯の利用に繋がります。したがって 5G から Beyond 5G へのマイグレーションシナリオの検討は組織の壁を越えて早急に行うべき推し進めるべき内容ではないでしょうか。5GMF 内におきましてこれらの環境変化を捉えまして関係の皆様からのご意見を頂戴いたしながら、新年度から 5GBeyond 5G 活動の一元化の可能性も視野に、今後より一層の連携を図るための検討を進めてまいりたいと考えているところでございます。以上 Beyond 5GReady 環境の早期実現に向けた 5GMF の取り組みを紹介並びに本今後の本コンソーシアムの取り組みの期待について触れさせていただきました。日本の Beyond 5G が世界を先導し、グローバルな visibility がこれまで以上に向上することを切に祈念いたしまして私からのメッセージとさせていただきます。

## (5) 閉会挨拶

### 1. 一般社団法人日本経済団体連合会 遠藤 信博

- 様々ご説明をお伺いする中で改めて Society5.0 や SDGs、これを実現するためには次世代の情報通信基盤でございます Beyond 5G が不可欠であるということを確認いたしました。Beyond 5G 時代におきましては、フィジカル空間とサイバー空間、これが接近し、融合して、時間と空間の制約がさらに緩和され、これらの領域で従来の常識では困難と考えられておりました限界を克服することができ、その結果として医療や教育、防災等様々な社会課題を解決することができる可能性ができたというふうに考えてございます。また通信機械それから周波数、それでそれから空間時間などのリソースをこれまで以上にダイナミックかつフルに活用をすることによりまして、個別のシステムの高度化や効率化のみならず、経済社会全体の全体最適化すなわち新しいバリューチェーンの構築による価値創造が可能になってくると考えております。本日公表予定の Beyond 5G ホワイトペーパー2.0 版では Beyond 5G の実現に向けて開発が必要な要素技術、それから様々な産業領域での活用の可能性について触れられているというふうに理解してございます。これらをベースに国内外のプレイヤーとの技術上、ビジネス上の連携を一層促進するとともにさらなる高い価値を実現するユースケース創出に向けて新たな技術開発

や、その発展、それから、新たな価値の創出に向けた努力がされていくというふうに考えてございます。またコンソーシアムで進められている WAKUWAKU2030 プロジェクト、これは人間社会のウェルビーイングの達成を考えそれに向けてユーザ企業と連携し新しい技術価値を創出する活動と理解してございます。このように、平等 5G の実現に向けた多様なステークホルダーによる議論を通じまして様々な産業と ICT を通して連携し、新たな価値を創造するバリューチェーンを構築いただきたいと考えております。他方、国際競争力の観点から少し申し上げたいと存じます。Beyond 5G へのアーキテクチャーや、要素技術に裏打ちをされた日本独自のモデルを世界に展開をしていくために、我が国の産官学が一体となって支え IT5.0forSDGs を実現するエコシステムを設計する必要があるとございます。関連産業を統合したプラットフォームや新たなサービスアーキテクチャーを推進するとともに、それらをベースとした標準化を戦略的に展開し、日本の技術の要素が盛り込まれるよう多くの利用が促されるように世界国際的に働きかける活動が極めて重要であろうと考えてございます。この点 Beyond 5G 国際カンファレンスをはじめ国際会議を通じた我が国の取り組み状況の発信、そして国際連携強化にも努力をしていただけるものと考えており、大いに期待をしてございます。今後は Society5.0、SDGs を実現するシステムの設計の一環としての Beyond 5G という視点を我々が鮮明に打ち出して、日本ならではのコンセプトと技術を国際的に発信するとともに、日本の総力を結集した推進体制を構築いただきたいと存じます。我が国としては ICT 分野における新たな日米協力構想でございます、グローバルデジタル連結パートナーシップ GDGP をはじめとしまして、2 国間連携の枠組みに加えて G7 やフォワード、さらに今自由で開かれた太平洋パイプといった同盟国同志国のマルチの枠組みを重層的に活用するなどして、戦略的アプローチを展開すべきであろうと考えております。Beyond 5G に関する日本の取り組みを国際的に発信するよう努力するとともにこれを発信する場として、Beyond 5G 推進コンソーシアムが設立をされてから 2 年余りが経った今、2025 年、先ほどもご説明が不足しございましたけども、大阪関西万博は、私どもの力を表現する大きなイベントであろうと考えてございます。Beyond 5GReady ショーケースの世界への発信に向けて、コンソーシアムのさらなる取り組み拡充に大いに期待をしたいと存じます。経済界といたしましても Beyond 5G を活用した新たな証創造に向けて全力で取り組んでまいる所存でございます。

以上